

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本日開催の取締役会で、2020年3月期の期末配当についてはやむをえず無配とする開示を行う旨決議いたしました。また、2021年3月期の配当金予想についても、現状この先の影響を見極めることが極めて困難なため、予想をお示しする状況にはなく、「未定」とせざるを得ないこととなりました。

期末配当を無配とせざるを得ないことについて、また、今期の配当金予想をお示しすることができないことについて、私は、経営者として重く受け止めており、株主の皆さまには心から深くお詫び申し上げます。

当社グループの属する航空業界では、テロや地域紛争、疫病の蔓延といったイベントリスクの発生により業績に大きな影響を受けることがあります。当社は、こうしたリスクへの耐性を高めるべく、効率性を重視した事業展開を行い、強固な財務体質の構築に努めてまいりました。同時に、株主の皆さまからお預かりしている資本の効率性向上にも努め、株主還元の充実にも努めてまいりました。

しかしながら、2020年1月以降、新型コロナウイルスの感染が世界的な拡がりを見せ、全世界において国境を跨いだ人の移動は大きく制限され、日本国内においても、緊急事態宣言が発令され、国内移動の自粛を求められるなど、航空需要の著しい減少に見舞われております。これは当社がこれまで経験し、また想定していたリスクの規模を大きく超えるものであり、当社グループの経営にも甚大な影響を受けております。

このような極めて厳しい経営環境の中ではありますが、当社では、客室乗務員のマスク・手袋着用や航空機内の消毒作業を徹底するなど、お客さまと社員の感染防止策を確実に実施し感染拡大の防止に努めながら、一便一便の安全を守り抜き、人の移動、医薬品・食料などの物流ネットワークを支え続けることで、当社グループは、社会的な使命を果たし続けております。

新型コロナウイルス感染拡大は、現時点では終息の兆しが見通せない状況です。このままでは、今期の当社の業績は大変厳しいものになる可能性があります。当社としては、この状況がしばらく続くことを想定し、手元流動性の確保を最優先に、この状況に全力で対応してまいります。

感染拡大はいずれ終息の時を迎えますので、中長期的には当社の収益構造の根本を揺るがすものではないと考えており、この危機を耐え抜き、再び高い収益力を持つ航空会社であり続けます。そのため、中長期的な株主還元方針は変わらないとご理解下さい。

この影響が終息し、航空需要が回復し、当社の業績が回復基調に戻ったと判断した段階で、再び継続的かつ安定的な株主還元の実現に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染拡大は、社会全体の在り方を大きく変える可能性があるとも言われております。しかしながら、グローバルな人と人との交流、物流ネットワークの重要性が低下することはありません。この厳しい状況を全社一丸となって耐え抜き、この危機が終息した後は、当社グループは、再び日本と世界の交流と、日本国内における地域間ネットワークの構築に貢献してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、当社が現在置かれている状況に鑑み、なにとぞご理解を賜りたく存じます。また、当社グループに対し、変わらぬご支援を賜れば幸甚に存じます。

皆さまとご家族のご健康をお祈り申し上げます。

2020年4月30日  
日本航空株式会社  
代表取締役 社長執行役員

赤坂 祐二